



鳥取市教育センターだより

第6号 平成26年10月24日発行

〒680-0053

鳥取市寺町150番地

TEL 0857-36-6060

FAX 0857-26-3878

E-mail kyo-center@city.tottori.lg.jp

鉛筆とボールペン

10月8日は皆既月食で、天文ファンはもとより多くの人が夜空を見上げたことと思います。条件のよいものとしては3年ぶりで、月が完全に地球の影に入ってしまったって起きる現象です。私も夕食後、外に出て夜空に出ている月をしばらくの間眺めていました。徐々に形が変わっていく月を眺めながら、心が洗われていくような、そして何とも言い難い不思議な気持ちになっていく自分に気づくことができました。自然から受けるこの癒しの力は、何物にも比較できないほど崇高で大きいものだ改めて感じました。生命の奥深くから何か力がわき出てくるようなそんな感じさえ受けました。

さて、先日ある人から、「私は、子どもたちに文字を書かせるとき、時には鉛筆ではなくボールペンを使わせたことがある」という話を聞きました。鉛筆だと間違えたときに、すぐに消しゴムで修正できるが、ボールペンだと修正できないので、一文字一文字丁寧に書くし、文章も頭の中でしっかり考えてから書くようになる・・・。最初聞いたときは、なぜかと思いましたが、改めて理由を聞くとなるほど納得するものでした。

文明は日進月歩に発展しています。私も今、こうやってパソコンのソフトを使って文章を作成し、修正をする箇所があれば、その箇所だけを修正しています。これが原稿用紙に向かって書いていたならば、途中を修正しようと思ったら、それ以降の文章すべて消さなくてはならないことになります。また、ひらがなを入力変換すれば、必要な漢字をすぐ見つけることもできます。これはほんの一例ですが、私たちを取り巻く環境は今後ますます便利なものとなっていくでしょう。このような優れた文明を作り出してきた人間の頭脳の底知れぬパワーを感じざるを得ません。この力をさらに発揮させるためにも、時には多少の不便さの中で、創意工夫したり我慢したり悩んだり・・・の経験も必要なのではないでしょうか。

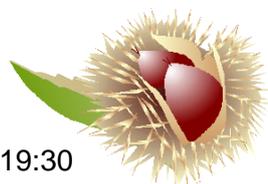
宇宙の偉大さ・神秘さと人間の秘めた能力の偉大さには共通するものがあるような気がします。

10・11月予定

10月25日(土) きなんせ! English World 10:00~11:45

11月19日(水) きなんせ! English World キャラバン(鹿野小学校)

11月28日(金) 先生のための きなんせ! English World 18:00~19:30



教育支援係

【一人一人に応じた支援を！】

秋休みもつかの間、後期がスタートしました。鳥取市教育センター「すなはま教室」でも、学校と同じように、前期に自分が頑張ったことやできるようになったことを振り返り、学年末の自分の姿を想像して、そこに向けて後期に取り組むことを一人一人が考えました。多くの児童生徒が入級当初に比べて自分の進歩を感じ、次の目標に向かってスタートを切りました。

すなはま教室の子どもたちを見ていると、「チャレンジ登校をしてみよう。」「苦手な学習に取り組んでみよう。」など、次へのステップに進む意欲が湧き、変化する時があります。それは、小さなことでも「できた！」という成就感を感じた時や、通級児童生徒との関係がうまく作れた時であるように思います。国立教育政策研究所の生徒指導資料「不登校への対応と学校の取組について」に書かれている「居場所づくり・絆づくり」にもつながっているのでしょうか。

各学校で、学校不適応傾向の児童生徒に対して様々な支援を模索しておられると思います。後期に生かせるよう、ひびきセミナー（事例研究）でエール「鳥取県発達障がい者支援センター」のみなさんからいただいた支援のポイントのうち、いくつか紹介します。

○できること・得意なことに目を向けて支援をする。

気になることに目を向け、それを改善しようとして支援をすることが多いのですが、児童生徒にとって非常に苦痛になる場合があります。本人の努力でできることか否かを見極めることが大切です。その子が「分かること・できること」をたくさん挙げることで、具体的な支援が見つかります。

○思いを聞き出し、自己理解につなげる。

集団への不適応が見られる児童生徒には、自分の発達のでこぼこに気づき、苦手なことがうまくいかないためにいらいらしたり、マイナスの行動をとったりする姿が見られます。教師との対話を通して、できている部分を自覚させること、苦手な部分をどう思っているのか本音を聞き出し、まずは困り感に共感し寄り添うことが大切です。苦手なことに取り組む前に、約束や目標をはっきりさせ、その枠内でできたことを褒めることで、成功体験を増やすことができます。

○個別の支援だけではなく、集団の支援が必要。

個へのアプローチだけでなく、集団の中でどのように育てていくのかという視点で支援策を考えることも必要です。

後期には、学習発表会や文化祭、マラソン大会など、学校行事がたくさんあります。一人一人の活躍できる場所を見つけ、個への支援、集団作りに生かしていけたらと考えます。

研修企画係

きなんせ！ English World

ALTの出身国についての紹介やALTとの学年ごとのアクティビティを通して、楽しく英語に触れることができました。

先生のための
English World

第2回研修会（9月12日）は、共同作業を通してALTとすっきり打ち解け、英語での会話もはずみ、笑い声のあふれる時間になりました。

きなんせ！ English World キャラバン



9月17日 末恒小学校



10月1日 面影小学校



※今後の予定

第3回 11月28日（金）

第4回 1月16日（金）

第5回 2月20日（金）



参加された先生方とALTで、ハロウィーンの掲示物を作成しました。教材としての活用法など話が弾みました。

児童生徒の学力向上のために

平成26年度全国学力・学習状況調査結果については、各学校で分析が進められているところですが、児童生徒の実態を把握する資料として有効に活用し、今後の取り組みに生かしていただくようお願いいたします。

①校内、中学校区、学校・家庭・地域で結果を共有し役割分担する

→みんなで子どもたちを育てるという意識をもって

②今取り組むこと、長期的に取り組むことを明確にする

→調査学年を卒業までにどう育てるか、来年度の調査学年に対して何ができるか
学校として、中学校区として、これは続けていくという取り組みは何か

鳥取市教育センターで開催する「第2回小中一貫教育研修会」（12月15日）では、調査結果の活用も含めた各中学校区の学力向上の取り組みについて情報交換を行う予定です。